

# 青少年赤十字創立100周年事業推進校実践事例集

～未来のあなたへ、やさしさを～

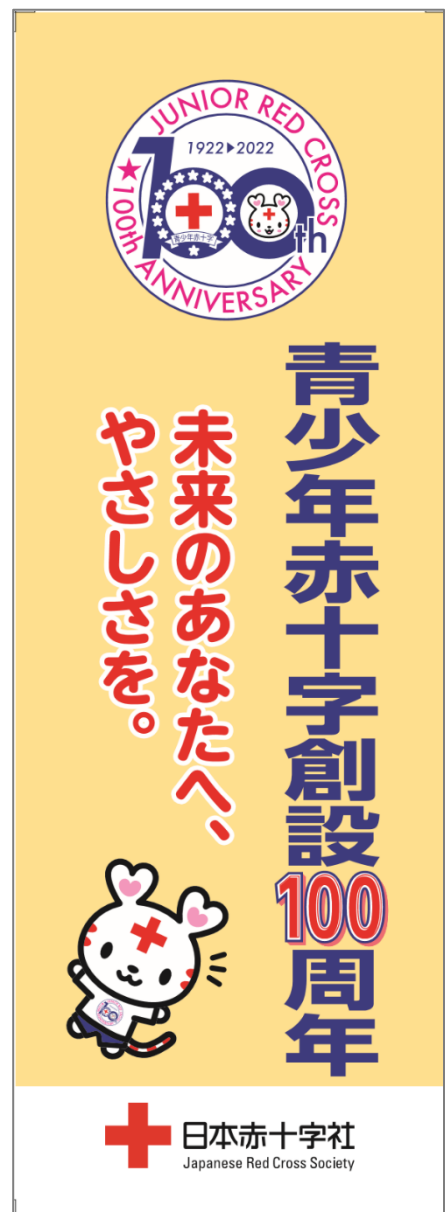


## はじめに

- 青少年赤十字は、第一次大戦（1914～1918）時にカナダ・アメリカ・オーストラリアの児童・生徒たちがヨーロッパの戦場となった国々の少年・少女や傷病者を慰めるためクリスマスカードや手紙を贈ったり、学校には文具、傷病者には下着や副木・つえなどの援助を行ったりしたことに始まります。
- 第一次大戦終戦の翌年（1919. 2. 1）、アメリカ・イギリス・イタリア・日本・フランスは、第一次世界大戦の経験から、「赤十字が戦時の救援ばかりでなく、平時においても、災害救護、衛生、社会福祉、看護、青少年赤十字などの事業を行うべきである」と赤十字社連盟の創設を呼びかけました。そして、1922年に開かれた第2回赤十字社連盟総会において、各国の赤十字社に対し、青少年赤十字の活動を積極的に行うよう勧告されました。
- 日本においては、日本赤十字社や文部科学省のバックアップを受け、現在の滋賀県守山市立守山小学校の校長先生が中心となって、1922年（大正11年）に日本で最初の少年赤十字団が結成されました。
- その翌年、大正12年9月1日（1923）に起こった関東大震災での被災者に対し、食糧や文房具などの支援を行ったことが最初の活動とされています。
- 現在では、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字のことを正しく理解し、進んで赤十字運動に参加してもらい、青少年の一人一人が世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、①「健康・安全」②「奉仕」③「国際理解・親善」の3つを「実践目標」として掲げ、学校（園）や日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげることが目的としています。
- 日本赤十字社岐阜県支部においては、本社が掲げる「未来のあなたへ、やさしさを」のスローガンのもと、100周年事業に取り組んでいます。
- 特に、この事例集で取り上げた5校では、この一年間、推進校として青少年赤十字の精神のもと学校の実情に応じた色々な活動に取り組んでいただきました。
- 本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいた推進校の校長先生方にお礼を申し上げますと共に、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

## 青少年赤十字創立100周年事業推進校

- 1 養老町立笠郷小学校
- 2 大野町立東小学校
- 3 高山市立栢尾小学校
- 4 東白川村立東白川中学校
- 5 岐阜県立岐阜高等学校



学 校 名	養老町立笠郷小学校 (校長 倉本 雅志)
活動の種類・単位	奉仕活動を小学校とこども園・保育園で連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	生活科・総合的な学習の時間・特別活動

## 1 活動テーマ

子どもの育ちと学びをつなぐ園小の交流と連携  
 ～コロナ禍で今自分たちに何ができるかを考える児童の育成～

## 2 主な活動内容

園小交流会として、1年1組と船附こども園の子、1年2組と下笠保育園の子が、一緒に遊びました。みんなが楽しめるように、いくつかの遊びのコーナーを作りました。その内の一つ、花いちもんめの遊びの中では、同じグループの子の名前を覚えようとする姿や、的当てで、園の子に「じょうず! すごいね!」と声をかけるなどのあたたかい姿がたくさんありました。どの遊びのコーナーでも、始める前に進んで遊び方を説明したり、次のコーナーへ連れて行ってあげたりと、お兄さんお姉さんとしての成長が見られました。



▲ 分かりやすく遊び方の説明をする様子



▲ まとあての様子

## 3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	コロナ禍においても、人とつながる喜びに気づき、交流の在り方を考え、実行できる力。
② 今後の方向	本年度末には、自分たちが行動できたこと、成長できたことについてまとめる。次年度も、近隣の保育園（下笠保育園）と子ども園（船附こども園）との年間を通した継続的で多様な交流を行う予定である。
③ JRC に対する理解	園小交流を通して、コロナだからしなければならないではなく、今、その子にとって嬉しいことは何かに気づき、自分たちで考え、心を通わせようと柔軟に行動できる姿が高まった。

学 校 名	岐阜県大野町立 東小学校 (校長 田代 学)
活動の種類・単位	奉仕（福祉）の視点から、自分たちにかかわりのある地域の清掃活動を全校の活動として行ったり、町の行政組織、施設の方から指導をうけ、将来、高齢者、障害者の方が住みやすい街づくりに寄与できるよう体験活動を行ったりした。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

## 1 活動テーマ

だれもが気持ちよく暮らせる町をめざして

## 2 主な活動内容

### ・視覚障害者体験

視覚障害をおもちの方をお招きし、日常の生活の様子について教えていただいたり、点字をはじめとする、生活をサポートする仕組みについて体験を通して学んだりした。



▲ 社協の方と車いす体験

### ・高齢者体験

社会福祉協会の方をお招きして、高齢者の生活について教えていただいたり、高齢者体験セットを用いて、高齢者の生活を疑似体験したりすることを通してサポートの必要性やその方法を学んだ。



▲ 介護施設の方と一緒にグループディスカッション

### ・車いす体験

社会福祉協会の方をお招きして、車いすの操作方法を教えていただき、車いすに乗ったり、押したりする活動を通して、町の中にある普段、自分たちが感じない不便さや、車いす生活をしていらっしゃる方の苦勞について学んだ。

### ・認知症サポーター養成講座受講

町役場福祉課の方、地域の介護施設の方をお招きして、認知症について学ぶと共に、そういった高齢者に接するとき、どういった点に配慮しなくてはならないかを、介護施設の方の具体的なケースをもとに、グループディスカッションを行い、認識を深めた。

### ・地域清掃活動

普段、学校生活を支えていただいている地域への感謝の気持ちをこめ、学校、地域の公民館周辺等の清掃活動や、壁等のほこり落としなどを行った。



▲ 地域清掃活動で壁みがき

## 3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	地域の一員であるという自覚とともに、地域に対して自分たちにもできることがあるという意識をもたせることができた。
② 今後の方向	子どもたちからの発想で、町のためになる活動が生まれ、継続して行われるよう方向づける。
③ JRC に対する理解	自分たちの活動の対象、範囲はキックオフの会で紹介した日本赤十字の活動よりも限定的で狭い範囲のものであるが、確実に日本赤十字の活動につながる活動を行っているという意識をもたせながら活動を仕組んだ。それにより JRC への理解も深まったと考える。

学 校 名	高山市立栃尾小学校 (校長 脇田 誠)
活動の種類・単位	「健康安全」に関わり、防災教育に取り組み、全校では「自分で考えて行動する命を守る訓練」、4年生は「砂防学習」を実施した。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・学級活動

### 1 活動テーマ

防災教育で育む自分で考えて行動する力～自分の命は自分で守る～

### 2 主な活動内容

防災教育は年間を通して取り組んでおり、「自分の命は自分で守る」を合言葉に、命を守る訓練や大学等の外部団体と連携した防災学習等、様々な活動を実施している。その中の「命を守る訓練」について紹介する。



▲ 雨天を想定した訓練。素早くテントを広げ避難場所とする。

#### (1) 繰り返し定着を図る指導

本校では毎月「命を守る訓練」を行っている。

また、同様な訓練を、改善を加えながら毎年繰り返している。年度当初は、事前指導を行いながら、基本的な動きについて全校で確認をする。その後は、児童への事前の周知のない訓練を適宜入れている。



▲ 職員の車で非難する事を想定した訓練

#### (2) 様々な場面の設定

訓練には、様々な場面の設定が必要であるが、栃尾小では、3つのパターンで場面を想定している。1つ目は災害の種類、2つ目は避難方法、3つ目は天候である。「災害」については、火災や地震、焼岳噴火といった場面設定を行っている。「避難方法」については、徒歩やバス、職員の車である。今年度の噴火時に備えた訓練では、職員の車に分乗するところまでを実施した。「天候」については、雨天時や降雪時の避難である。この地域は、大雨や雪害についても対策が必要である。今年、折り畳み式のテントを使用することで、素早く準備をすることができた。



▲ 委員会の児童が中心となり、訓練の振り返り

#### (3) 地域との連携

地域との連携も行っており、例年、地域の避難訓練に参加し、学年に応じた防災学習を行っている。今年度は、コロナの影響により、地域の訓練は中止となってしまったが、学校独自で焼岳噴火を想定した訓練と、防災学習を行った。

### 3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	命を守る訓練では、多くの場面設定と児童への告知なしの訓練を取り入れ、自分で考えて動く機会を与えることができた。また、繰り返すことで、落ち着いて状況判断をし、行動する力も身につけてきている。
② 今後の方向	火山噴火や荒天時のように、この地域の特性に合わせた訓練も取り入れ、児童が自分で考えて行動する力を育てていきたい。
③ JRC に対する理解	キックオフの会において、「気づき、考え、実行する」について理解を深め、委員会活動等で実践した。また、防災教育では、助け合うことも大切に、高学年が低学年をサポートしたり、お互いに声を掛け合ったりすることができた。

学 校 名	東白川村立東白川中学校（校長 竹腰 宣行）
活動の種類・単位	(1) 命を守る訓練（健康安全） (2) 救命救急講習会（健康安全） (3) SDGs に貢献する東濃檜と青少年赤十字活動（環境）
教育課程上の位置付け	(1) 学校行事 (2) 保健体育 (3) 総合的な学習

### 1 活動テーマ

命を守る～防災とSDGs～

### 2 主な活動内容

#### (1) 命を守る訓練

- ・年間3回の命を守る訓練に実施
- ・年間2回のシェイクアウト訓練の実施
- ・1年生の宿泊研修での命を守る訓練（想定：津波）

#### (2) 救命救急講習会

- ・救急法（心肺蘇生とAEDを用いた除細動）についての知識の習得  
（講師：赤十字救急法指導員・清水 剛 様）

#### (3) SDGs に貢献する東濃檜と青少年赤十字活動

- ・林業講話（SDGs に貢献する東濃檜）
- ・赤十字100周年記念の檜コースターづくり  
（講師：青空見聞塾の皆様 代表者：村雲 辰善 様）



▲ 救命救急講習会～心肺蘇生の演示



▲ふるさとの東濃檜で作るコースター

### 3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	(1) 「自分の命は自分で守る」という意識 (2) 救急法（心肺蘇生とAEDを用いた除細動）の知識 (3) SDGs への認識とふるさとへの愛情
② 今後の方向	コロナ禍ではあるが、できるかぎりの工夫と改善をしながら今後も活動を行い、防災への意識やSDGsを踏まえたふるさとへの愛情を高めていきたい。
③ JRC に対する理解	実際を想定した活動（命を守る訓練など）や専門の講師の方々からのご指導（救命救急法など）を通して、JRC への理解が深まったり JRC で大切にしている優しさや思いやりの心を育てたりすることができた。

学 校 名	岐阜県立岐阜高等学校（校長 石田 達也）
活動の種類・単位	様々な奉仕活動を、生徒が活動の主体となって取り組んだ。
教育課程上の位置付け	課外活動

### 1 活動テーマ

「トータルパーソン」につなげるボランティア活動

### 2 主な活動内容

- ・生活委員や美化委員、生徒有志らによる地域清掃活動「太陽の日」
- ・家庭クラブを中心とした、千手堂病院への訪問
- ・全校生徒に呼びかけて実施している歳末助け合い募金活動
- ・1年次生を中心とした勤労奉仕活動、生徒有志による校内環境維持活動

※以下は新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかった活動

- ・E S S部を中心とした、鶯飼通訳ボランティア
- ・音楽部を中心とした、松波病院や福祉施設、小中学校への訪問演奏
- ・家庭クラブを中心とした、岐阜盲学校点字通訳ボランティア
- ・音楽部、家庭クラブ、生徒会執行部、生徒有志による盲人施設訪問



▲「太陽の日」に集まった有志ら



▲ 硬式野球部を中心とした有志除雪作業

### 3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	元々ボランティア精神に富んだ生徒が多い本校においても、改めて地域に貢献することの大切さを感じとり、行動を起こすことにこそ意味があることを学びとった。
② 今後の方向	令和元年度まで実施できていた多数のボランティア活動のうち、新型コロナウイルス感染拡大により実施できなくなってしまったものが多数あり、今後も暫くは制限が加えられることが予想される中ではあるが、身近なところからできることを探し、今回の取り組み以外にもできるだけ多くの機会を設定したいと考えている。
③ JRC に対する理解	これまでは自分たちが青年赤十字の会員であることをよく理解していなかったところ、キックオフの会をはじめとする様々な奉仕活動を通して、赤十字の精神である「博愛」と「人道」の意識を高めることができた。



